

■厚生文教常任委員会所管事務調査■

10月2、3日の2日間にかけて、厚生文教常任委員会の所管事務調査が実施されました。視察地は、千葉県我孫子市の子どもの居場所づくり「あびっ子クラブ」と、水戸市の子育て支援・多世代交流センター「わんぱく・みと」

1. 子どもの居場所づくり～あびっ子クラブ～

今年度から創設された「放課後子どもプラン」を千葉県で最初に実施。

学童保育が、就労支援の施設であるのに対して、あびっ子クラブは、子どもの居場所を提供する自己責任の場です。

1) 目的 子どもが安心してのびのびと遊ぶことのできる地域環境を整えることにより、子どもたちが自主性、社会性、創造性などの様々な能力を自然に伸ばし生きる力を身につける。

2) 事業内容 小学生を対象として、放課後や土曜日など、子どもたちが安心して自由に遊べる学校の復活を目指し、地域交流教室や図書館、校庭、体育館などを活動の場とする子どもの居場所を整備。地域（団体）、学校、行政等が協力して、子どもの居場所の運営を行っている。13校ある小学校で、今年度我孫子第一小学校でモデル的に実施。

2. 子育て支援・多世代交流センター～わんぱく・みと～

1) 目的 子どもを中心とした様々な世代の方が集い、交流でき、少子高齢化に対応した福祉のまちづくりの拠点となることを目的として設置。

2) 事業内容 遊戯室（多世代トレーニングルーム）児童館的機能を持った室内の遊び場を提供し、各種レクリエーション活動や運動等による多世代交流を促進し、また、主に乳幼児を利用対象とした子育て支援をする（プレイルーム）。

★視察した感想

我孫子市は、文部科学省の「放課後子どもプラン」のモデルケースとして実施。全国の市町村で実施が求められているが、当町にとっておおいに参考になると感じた。また、水戸市の取組は、多世代交流を視野に入れており、公民館建設等の参考になると思う。



あびっ子クラブで折り紙



わんぱく・みと 親子交流フロア

■議会運営委員会所管事務調査■

10月23、24日の2日間、議会運営委員会の所管事務調査で埼玉県宮代町、宮城県本吉町を訪れました。今回の所管事務調査の目的は、議会運営委員会の在り方、一般質問の方法、議会運営上の活性化対策等の調査です。

1. 宮代町

宮代町は、埼玉県の東北部に位置し、面積15.95平方キロメートル、人口約3万4千人、都心から40キロメートル。三芳町に似たベッドタウンの町です。

特に、財政の削減を目的に議場を作らず、多目的ホールを利用したユニークな円卓の議場が有名です。（写真下左）。

2. 本吉町

本吉町は、宮城県の北東沿岸部、県庁所在地である仙台から約115kmの地点にあり、気仙沼、本吉広域圏のほぼ中央に位置する町です。人口は11,644人。

本吉町では、平成7年議会行政改革特別委員会を設置し、様々な取り組みをしている。

(1) 一般質問での対面式採用 当町では質問席はないが対面で実施。

(2) 議会報告会の開催 議会の立場から町民への町政に関する情報提供に努める。

(3) 夜間議会の開催 町民の議会傍聴の機会を拡大し、開かれた議会づくり。

(4) 出前議会の開催 多様な町民の意思・意見を聴取する。

(5) 議会に自由討議を導入し、議員同士の議案内容の共通理解を深める。

★視察した感想

宮代町の多目的ホールを利用したユニークな円卓の議場は、今後公民館等で公開の議会をする際に大いに参考になる。

また、本吉町は、議会行政改革特別委員会を設置し、多様な取組をしている。当町でも、12月議会において議員全員の協議会において、開かれた議会を目指し、積極的に議会改革を行っていくことが確認され、来年度から動き出すことになった。何よりも、本吉町の議員の熱い思いに心打たれ、多くのことを学ぶことができた充実した視察でした。



円卓の議場（宮代町）



一般質問席（本吉町）